

◆【日本の水産業を担う若者 32 人が、実習船「やいづ」で遠洋航海実習】

—静岡県立焼津水産高等学校（専攻科生 16 名）／静岡県立漁業高等学園（第 51 期生 16 名）—
晴天に恵まれた出航日和の 1 月 13 日、焼津漁港第一船渠東岸壁から、静岡県立焼津水産高等学校の実習船「やいづ」が、静岡県立焼津水産高等学校の専攻科生と静岡県立漁業高等学園の第 51 期生、合わせて 32 人を乗せて、遠洋航海実習（マリアナ海域漁場）に向かった。

学校で学んだ知識と訓練の成果を洋上実習で確認

今回は新型コロナウイルス感染症拡大が心配される中、例年 11 月に実施している遠洋航海実習を 1 月に変更し、さらに PCR 検査で乗船者の陰性を確認した。
また出航式も簡略化して行われた。

生徒たちはマリアナ海域漁場で、カツオの一本釣りにより漁場調査を行い、初めて経験するカツオの重さに最初は慌てる場面もあったようだが、順調に釣りあげて慣れてくると、ナブラがスピード勝負であることを体感することができ、若き実習生たちは操業実習を終えて、小笠原諸島の父島（二見湾で錨泊）を経由し、1 月 28 日に無事に焼津港に帰港した。

学校紹介

【静岡県立焼津水産高等学校】静岡県焼津市焼津 5 - 5 - 2

水産県静岡の担い手として本校卒業生の多くが水産・海洋関連業界で活躍しており、学科は将来の船長・機関長を目指す海洋科学科のほか、食品科学科、流通情報科、栽培漁業科がある。海洋科学科には 4 コースが設置され、2 年次から

- ①漁業や船舶の運航を学ぶ「航海類型」
- ②船舶機関の保守・管理技術を学ぶ「機関類型」
- ③旋盤、溶接などの機械全般を幅広く学ぶ「工学類型」
- ④海洋環境やダイビング技術を学ぶ「開発類型」のコースに分かれる。

実習船に乗り、自然の魅力を十分感じながら大型船の船長・機関長になるための 3 級海技士を取得する専攻科にも繋がっており、魅力いっぱいの海を駆けめぐり、船長や機関長など船員職業の選択肢が広がっている。

【静岡県立漁業高等学園】静岡県焼津市小川 3 7 4 7 - 2

全寮制 1 年間の修学で、海で働くための技術、知識、体力を身に付け、必要な資格取得を目指す学園で、水産業の盛んな静岡県では、昭和 45 年に県立の漁業高等学園を設立し、これまでの間 9 0 0 人を超える卒業生を沖合・遠洋漁業へ送り出してきた。

日本の漁業は、漁船の近代化や大型化など技術革新も著しく、これからの漁船船員には、これから技術進歩に的確に対応できることと、航海士や機関士などの漁船の運航に必要な資格も要求される。静岡県立漁業高等学園は、漁業を志す中学卒業以上の若者を対象に、漁業に関する知識と技能の教育・訓練を行い、将来は漁船漁業の幹部職員となる者の養成を目的とし教育を行っている。

「海員だより」